

國家機密

貳拾部ノ内

16

帝國國策遂行要領 (御前會議講題)

6

0428

帝國國策遂行要領

(御前會議議題)

一、帝國ハ現下ノ危局ヲ打脱シテ自存自衛ヲ完ウシ大東亞ノ新秩序ヲ建設スル爲此ノ際對米英蘭戰爭ヲ決意シ左記措置ヲ採ル

(一) 武力發動ノ時機ヲ十二月初頭ト定メ陸海軍ハ作戰準備ヲ完整ス

(二) 對米交渉ハ別紙要領ニ依リ之ヲ行フ

(三) 獨伊トノ提携強化ヲ圖ル

(四) 武力發動ノ直前泰トノ間ニ軍事的緊密關係ヲ樹立ス

二、對米交渉ガ十二月一日午前零時迄ニ成功セバ武力發動ヲ中止ス

別紙 對米交渉要領

對米交渉ハ從來懸案トナレル重要事項ノ表現方式ヲ緩和修正スル別記
甲案或ハ別記乙案ヲ以テ交渉ニ臨ミ之ガ妥結ヲ計ルモノトス

甲 案

日米交渉懸案中最重要ナル事項ハ(一)支那及佛印ニ於ケル駐兵及撤兵問題(二)支那ニ於ケル通商無差別問題(三)三國條約ノ解釋及履行問題及(四)四原則問題ナル所之等諸項ニ付テハ左記ノ程序ニ之ヲ緩和ス

記

9

(一)支那ニ於ケル駐兵及撤兵問題

本件ニ付テハ米陸側ハ駐兵ノ理由ハ暫ク之ヲ別トシ(イ)不確定期間ノ駐兵ヲ重視シ(ロ)平和解決條件中ニ之ヲ包含セシムルコトニ異論ヲ有シ(ハ)撤兵ニ關シ更ニ明確ナル意思表示ヲ要望シ居ルニ鑑ミ次ノ諸案
程序ニ緩和ス

日支事變ノ爲支那ニ派遣セラレタル日本國軍隊ハ北支及蒙疆ノ一

0431

定地域及海南島ニ關シテハ日支間平和成立後所要期間駐屯スベク
爾餘ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間ニ別ニ定メラルル所ニ從ヒ
撤去ヲ開始シ二年以内ニ之ヲ完了スベシ

(註) 所要期間ニ付米側ヨリ質問アリタル場合ハ概ネ二十五年

ヲ目途トスルモノナル旨ヲ以テ隱酬スルモノトス 10

(二) 佛印ニ於ケル駐兵及撤兵

本件ニ付テハ米側ハ日本ハ佛印ニ對シ領土的野心ヲ有シ且近接地方
ニ對スル武力進出ノ基地タラシメントスルモノナリトノ危惧ノ念ヲ
有スト認メラルルヲ以テ次ノ案程度ニ緩和ス

日本國政府ハ佛領印度支那ノ領土主權ヲ尊重ス、現ニ佛領印度支
那ニ派遣セラレ居ル日本國軍隊ハ支那華僑ニシテ解決スルカ又ハ

0432

公正ナル極東平和ノ確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤去スベシ

(三) 支那ニ於ケル通商無差別待遇問題

本件ニ付テハ既提出ノ九月二十五日案ニテ到底妥結ノ見込無キ場合ニハ次ノ案ヲ以テ對峙スルモノトス

日本國政府ハ無差別原則ガ全世界ニ適用セラルルモノナルニ於テハ太平洋全地域即支那ニ於テモ本原則ノ行ハルルコトヲ承認ス

(四) 三國條約ノ解釋及履行問題

本件ニ付テハ我方トシテハ自衛權ノ解釋ヲ濫ニ擴大スル意圖ナキコトヲ更ニ明瞭ニスルト共ニ三國條約ノ解釋及履行ニ關シテハ我方ハ從來屢々説明セル如ク日本國政府ノ自ラ決定スル所ニ依リテ行動スル次第ニシテ此點ハ既ニ米國側ノ了承ヲ得タルモノナリト思考スル

0433

旨ヲ以テ應酬ス

(五) 米側ノ所罷四原則ニ付テハ之ヲ日米間ノ正式妥結事項(了解案タル

ト又ハ其他ノ聲明タルトキ間ハズ) 中ニ包含セシムルコトハ極力回

避ス

乙案

一、日米兩國ハ孰レモ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力的進出ヲ行ハザルコトヲ約スベシ

二、日米兩國政府ハ緬領印度ニ於テ其ノ必要トスル物資ノ獲得ガ保障セラルル様相互ニ協力スベシ

三、日米兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ資金凍結前ノ狀態ニ復歸セシムベシ

米國ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約スベシ

四、米國政府ハ日支兩國ノ和平ニ勵スル努力ニ支障ヲ與フルガ如キ行動

ニ出デザルベシ

備考

0435

一、必要ニ應ジ本取極成立セバ南部佛印駐屯中ノ日本軍ハ佛國政府ノ諒解ヲ待テ北部佛印ニ移駐スルノ用意アルコト竝支那事變解決スルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立ノ上ハ前記日本國軍隊ヲ佛印ヨリ撤退スベキコトヲ約束シ差支無シ

二、尙必要ニ應ジテハ從來ノ提案（最後案）中ニアリタル通商無差別待遇ニ關スル規定及三國條約ノ解釋及履行ニ關スル規定ヲ追加挿入スルモノトス